

今後の予定 1) 第 68 回 オンラインで定例会➡会員限定

◆第68 回定例会 日時 令和 2 年 12 月 1 日(火) 13:00-15:00

講師:神戸大学・大学院准教授 北野幸子先生

講演名「評価を活用した保育の質の維持・向上」

注意事項 ・アクセスは 100 回線が限度のため、1 施設 1 回線を原則とする。

・大学の事情で録音等は遠慮いただきたいとのこと。

※東ヶ崎事務局長よりご案内が出ています。お申し込みください

いよいよ北野先生出陣です 皆さん楽しみに

保育総合研究会 臨時

News

VOL.14 2020.11.30

発行人 保育総合研究会 会長 梶沢 幸苗
発行元 事務局長 社会福祉法人 東明会
飯沼こども園 理事長 東ヶ崎静仁
〒311-3153 茨城県東茨城郡茨城町上飯沼 1276-1
029-292-6868 Fax 029-292-3831
E-mail iinuma-n@ans.co.jp

全国会員数 97名

報告 1) 令和 2 年度予算⇒次回 15 号で詳しく記述します

- ◇人勧は保育士年額約 1 万円減額 (×人数分返還)
- ◇第 3 次補正は出る予定 予定額は 50 万円
- ◇退職共済は継続予定⇒**但し令和 3 年は恐怖**
- ⇒**最後の頁参照⇒是非とも要望書 12/1-5 に関係者お渡しください**

お願い←もしもご存知の国会議員さん等にお渡し願えるのであれば是非ともお渡しください。

何かあったら坂崎まで (伊東・東ヶ崎さんにも大変お世話になりました。)

今後の予定 2) サポートブック年齢別⇒仙台での最終打ち合わせ

- ◆サポートブック打ち合わせ会 **日時 令和 2 年 12 月 8 日(火) 13:00-19:00**
場所:仙台市 駅周辺ホテル未定

参加者に直接東ヶ崎事務局長より当日の会場等日程が近日送られます。

※ワンダークリエイト飯塚編集長及び保総研からは栴沢会長ら 6 人の参加の会議となります。(保総研参加者:栴沢・坂崎・東ヶ崎・永田・遠藤浩平・森本)

今後の予定 3) 保総研 三役会&役員 zoom 会議予定

◆次々回三役・事務局会議 12月24日(木)13:00~13:45

◆次回役員会 12月24日(木)14:00~15:00

審議事項 ①令和2年度年次大会の開催について②令和3年度役員及び部会等構想について

③7 プロポジションについて

④その他

② 役員候補については、仮承諾のみを得ているので、詳細を詰めて12./24の役員会に臨む予定です。

12/24までの間に「次期事務局会議」「次期副会長会議」「次期部会会議」など

ジャミーズ法人検討及び移行の「法人化委員会」と「広報委員」の会議をオンラインで行い、詳細を詰めていきます。 ※次期役員会の考え方については前月 13 号をお読みください

③ 7 プロポジションは現在第 4 章の整理等をし、更に審議します。この後全ての整理が終われば

保総研各大御所の先生等にも11月末から12月中旬依頼し、それぞれ検討していただきます。次に検討

zoom 委員会(委員長・事務局及び三役)を 12 月に計画して、最終審議します。検討最終は12月 24 日の役員会で検討願う予定です。この間に北野先生等の有識者にもご意見を賜って加筆訂正します。

坂崎副会長

報告 2) → 11/19 厚労省援護局 宇野課長 初鹿専門官へ感謝の御挨拶をしました

『主な検討事項』 社会福祉連携推進法人の施行に向けた質問

◇来年春までの検討事項についての詳細は 15 号をご覧ください

報告 3) → 11/19 内閣府幼保連携室 島倉専門官 馬場調査官へ御挨拶をしました

◇来年度、要領等の講演を予定している関係でご挨拶しました。

報告 4)→11/26 厚労省保育課 打ち合わせ資料より 過疎地調査始まる

下記ページ(見にくいとおもいますが、ご勘弁を)をご参照ください。

◇過疎地サミットを是非とも、保総研でも行っていけたらと思います。

人口減少地域等における保育に関するニーズや事業継続に向けた取組事例に関する調査研究 (令和2年度子ども・子育て支援推進調査研究事業)

1. 本調査研究の目的

- 人口減少地域においては、今後、利用児童の減少に伴い、
 - ・利用定員を満たさない状態での施設運営、
 - ・継続利用の確保など、**地域の保育ニーズに対応した保育の受け皿の確保、安定的な事業継続が困難な状況**が生じる可能性がある。
- 本調査研究では、
 - ・人口減少地域等における**ニーズに対応した保育の提供確保に向けた取組事例**や、
 - ・**今後検討すべき課題**について調査、検討する。(今年度末に報告書を取りまとめる予定)

2. 本調査研究の概要

- 以下の3つを組み合わせて実施予定。

①自治体調査

離島・へき地を含め今後人口減少が見込まれる全国の市町村に対して、地域の保育ニーズに対応した保育の提供確保に向けて現在行っている事業継続支援等の取組みや今後の対応方針、現在認識している課題等に係るアンケート調査を実施。

②ヒアリングの実施

自治体に対するアンケート調査の結果を踏まえ、先進的な取組みを行っている自治体(13自治体程度)と、現在、課題等を抱えている自治体(7自治体程度)それぞれから、より詳細な取組内容や認識等をヒアリング。

③研究会の開催

自治体担当者、保育関係者、有識者からなる研究会を開催し、①自治体調査と②ヒアリングにおいて得られた結果を踏まえ、人口減少地域等における保育ニーズに対応した保育の確保に向けた事業継続等に係る取組みの在り方について検討。

(参考) 子ども・子育て支援新制を施行後5年の見直しに係る対応方針について(令和元年12月10日子ども・子育て会議)抄
「離島・へき地を含む人口減少地域等における保育に関するニーズの見直しや取組事例を把握するための実態調査の実施など、その実態の把握や対応策として何が考えられるかの検討に着手すべき」

今回の情報提供 ☆2020年 令和2年度定例会等 12月事業予定

◆第68回定例会 日時 令和2年12月1日(火) 13:00-15:00

講師:神戸大学・大学院准教授 北野幸子先生 講演名「評価を活用した保育の質の維持・向上」

P1 第68回定例会

P2 サポートブック仙台

P4 12/24 三役会・役員会議

P4-5 報告3本&過疎地調査

P7-8 『保総研の歴史 No.14』今さらながら どうして

岩手美人のお二人 打田修子&菊地きせこさんを紹介(ここは坂崎の勝手な思いを書いています。ご勘弁を)

P8-9 和食継承人材育成研修会&12/23 ALL DAY NIPPON/in 保育&編集誤記

P10-12 ※参照分 令和3年度予算要望について

当会HPアドレス http://hosouken.dip.jp/hskblog/_trashed/

◆次回No.15を12/11以降に広報配布する予定です。

人権問題や令和3年度予算について詳しくお話をします。

7 プロポジションを 12 月には最終検討していきます。

『保総研の歴史 No.14』今さらながら どうして 岩手美人の お二人 打田修子&菊地きせこさんを紹介

岩手県の人も話させてほしい。岩手県人は、基本的に無口だと言われる。その分の情熱は計り知れない。ということでお二人の岩手美人をご紹介します。喜勢子さんも修子さんもお二人とも、ご子息が活躍しているが、そのご子息なども知らないこともあるかも知れないので、その点をご勘弁願いたい。岩手県は、盛岡を中心にした北は旧南部藩(蕎麦文化)、平泉から南は旧伊達藩(餅文化)であり、もちろん3・11の甚大な被害を受けた三陸地方も忘れてはいけない。10年目を迎える今期、まだまだ復興には難しいところもあるが、岩手県の人たちは本当に頑張っている。

Japan

Association of 連合(すること)

Multidisciplinary Research for

多くの学問領域にわたる 研究

Early Childhood Care and

Education

さて菊地喜勢子さんからお話をしよう。新幹線の駅とすれば宮城県に近い水沢江刺が最寄り駅近くとなる。喜勢子さんの園は嫁ぎ先(旦那様)が未満児保育園をしていて、その為に保母の学校に通い、後に園長になった。修子さんに誘われて保総研に来たのだが、寡黙な喜勢子さんはその後ぞくぞくと事業を展開していく。未満児保育園を、広大な敷地に普通の保育園を建て直し、あっさりと(見える)認定こども園に変え、更に2園目も始めている。出会ってから、あっという間に進めるその手腕はやはり、伊達藩の血を引いているのか、いつも

ニコニコしているのに決めたとなると実に一直線だ。実は他の人とは覚悟が違う。腹が座っているのだ。「それ以上言わない」でと、喜勢子さんの悲鳴が聞こえそうなのであとはやめとくこととする。

そして修子さんのことだ。修子さんとは、間違いなく今年で30年以上の付き合いになる。シャイの塊だが、歌も歌うし祭りも大好きだ。保育にも精通している修子さんだが、喜勢子さん同様も若い頃からその心意気はなんともキップが良い。彼女の保育の事を書くのが本筋だが、このコロナ渦、今年こども園・小規模保育事業に続いて「こども食堂」を始めている。見た目のシャイさとは裏腹にどうして福祉の心に満ち溢れているんだ。こちらも「いらんことを言うな」と言われそうだが、みんなで応援したいものである。息子たちにしてみれば、今が全てであるが、是非ともこの女傑の精神を受け継いで、面白く発展させてもらいたいものだ。どんな時代を迎えようと、どう守り、どう攻めるかは、その心意気と共にある。厳しいことはたくさんあるが、是非とも岩手でも全国でも活躍して欲しい。岩手には、現在支部長しているカナナさんや同じく花巻のゆかりさんや盟友の小関らがいるが、それらについては又御述と勘弁願いたい。

保育総合研究会の皆様 和食継承人材育成研修会 のご案内

坂崎は現在、農水省の和食文化継承の人材育成等事業検討委員をしております

本日以下の URL に人材育成事業の募集ページをアップいたしました。お忙しいところ大変恐れ入りますが、該当地域に所属のご関係者様へご案内頂けますでしょうか。

和食継承人材育成研修 お申込み URL <https://ouchidewashoku.maff.go.jp/seminar/>

●本年度対象地域

茨城、山形、石川、京都、島根、高知、大分、鹿児島

●研修期間

2020年11月23日～2021年2月28日

●グループワーク(オンライン)の日程 (お一人につき1回のみ参加)

11月29日(日) 茨城県 12月5日(土) 山形県 12月6日(日) 石川県

12月19日(土) 京都府 12月20日(日) 島根県 12月28日(月) 高知県

1月11日(祝・月) 大分県・鹿児島県

*対象日の参加がやむを得ず、難しい場合は、他地域の日程にご参加頂ければと思います。

保育総合研究会の皆様 ALL DAY NIPPON/in 保育のご案内

開催日時 2020年12月23日(水)午前9時から午後5時 参加費 無料 MCは坂崎です

(トータル8時間です。ご都合に合わせて、興味のあるところを視聴してください。もちろん全部でも！)

開催形式 オンライン(会議システム ZOOM を利用)

ひとり残らず登録ください

研修会テーマ 「2020の今」時代の変遷と現在を俯瞰してみる 次代と未来を想像し創造する

≪参加申し込み≫ [12月14日下記URLをクリックして参加申し込みページにお進みください](https://business.form-mailer.jp/lp/8051f97c132659)

<https://business.form-mailer.jp/lp/8051f97c132659>

※ 樫沢会長 伊東副会長 森田副会長 東ヶ崎事務局長も出演します

編集誤記

思いが未来を変える。保総研が未来を作る。

この広報に対する内容については下記に電話等でご連絡を頂けると有難いです。

担当:〒039-4222 青森県下北郡東通村砂子又大字沢内 9-35

保育総合研究会 副会長 坂崎隆浩 携帯:090-6252-3699

メール:kodomoen.sakazaki@angel.ocn.ne.jp
(こども園ひがしどおり FAX: 0175-31-0203)

関係者に渡せるのであれば宜しくお願いします。P10 は要望書、P11-12 は 3 団体要望書

日頃より、保育・子育て支援の施策の充実にご尽力賜り、深く感謝申し上げます。

今般、私たちは、保育三団体と協力して、別添「令和 3 年度保育関係予算・制度等に向けた要望」の実現に向けて活動しております。御高覧の上、御高配賜りますようお願い申し上げます。

特に、保育に関しての人材不足が深刻であることを鑑み、保育士等の処遇改善は不可欠なものと考えます。

又、新型コロナウイルス感染症に関しては、引き続き保育現場の感染症対策は必須であると考えます。

保育所・認定こども園が社会インフラ(医療・介護現場や経済活動等の支援)としての重要性を鑑み、更なる予算確保等を是非ともお願い申し上げます。

今後とも引き続き、保育・子育て支援の施策の充実へのご支援、ご指導を賜りますようお願いいたします。

令和2年 12 月〇〇日

保育三団体「令和3年度保育関係予算・制度等に向けた要望」

令和2年10月

令和3年度保育関係予算・制度等に向けた要望
社会福祉法人 日本保育協会 理事長 大谷 泰夫
社会福祉法人 全国社会福祉協議会 全国保育協議会 会長 万田 康
公益社団法人 全国私立保育園連盟 会長 小林 公正

新型コロナウイルス感染症の拡大の中、学校が一斉休校となる状況にあっても、保育所等は社会を支えるため、保育を継続し、社会生活や経済活動を営む上で不可欠なインフラであることが改めて示されました。我が国の少子高齢化と人口減少の進行は、これまでの推測を超える厳しい状況にあり、その対策は、国や社会の存立基盤に大きな影響を及ぼす先送りのできない重要な課題となっており、家庭や地域における子育て支援の推進を目的に、「すべての子ども・子育て家庭を対象に、幼児教育、保育、地域の子ども・子育て支援の質・量の拡充を図る」とする「子ども・子育て支援新制度」の趣旨を踏まえ、「量的拡充」と「質の向上」を両輪として取り組みを進める必要があります。新型コロナウイルス感染症により、社会全体が大きく影響を受けているところですが、次代を担うすべての子どもたちの成長を支えるために、以下について要望します。

1. 保育の質・機能の向上のために

子ども・子育て支援新制度制定時に確認された「量的拡充」「質の向上」を実現するため、子ども・子育て会議での共通理解でもある、我が国の新制度の安定的定着のために、消費税以外の0.3兆円超を含む総額1兆円超の財源を早期にかつ恒久的に確保することを要望します。

2. 保育人材の確保・定着について

保育の「質の向上」のためにも、保育現場の喫緊の課題である「人材確保」が必要であり、職員の処遇改善が不可欠です。保育士と全産業の労働者の平均賃金にいまだに差がことや職員の平均勤続年数が年々伸びている状況にも鑑み、社会的使命と役割を発揮するためにも更なる処遇改善や環境改善などを要望します。なお、平成 32 年度(令和2年度)までに検討し結論を得るとされている社会福祉施設職員等退職手当共済制度については、今後も堅持・継続することを要望します。

3. 公定価格の充実について

子ども・子育て支援新制度 5 年後の見直しにおいて、保育を確保する観点から、公定価格の算定は積み上げ方式を堅持することとなりましたが、現行の公定価格は低い水準であることから、さらなる充実を引き続き要望します。

4. 人口減少地域における保育施設への振興対策等の実施

人口減少地域においても、子どもの育ちと子育て家庭を支援するため、地域から保育の場がなくならないよう、認可を受けた保育施設(地域型保育事業を含む。)として維持することなどの施策を要望します。

5. 「保育所等整備交付金」等の拡充・推進について

子育て安心プラン等に基づく保育の供給体制整備のため、引き続き「保育所等整備交付金」の補助単価を、資材費や労務費等の動向を踏まえて改善することを要望します。また、災害時の復旧にかかる「社会福祉施設等災害復旧費国庫補助金」について迅速な支給等を求めるとともに、外構などの対象拡大及び非常時における衛生用品等の備蓄の検討を要望します。

6. 企業主導型保育事業に対する自治体の関与について

企業主導による保育事業については、保育の質の向上や需給調整の観点から、自治体(市町村等)の関与の仕組みを導入することや待機児童の解消策に特化することを要望します。

7. 子育て家庭の負担軽減について

令和元年 10 月から3歳未満児の住民税非課税世帯の家庭及び3歳以上児の家庭の無償化が実施されました。支給認定の満 3 歳児の扱いについて、認定間の整合性をとることを要望します。

また、引き続き子育て家庭の負担等の一層の軽減を要望するとともに、さらなる地域子育て支援の充実を要望します。

8. 新型コロナウイルス感染症等の対応について

新型コロナウイルス感染症やその他感染症等の発生時における保育の取り扱いについて、その対応を検証し、臨時休園のガ

イドライン等関連通知の整備などを図ることや、感染症の状況にも応じ、感染防止用品や保護者への相談のための ICT 機器の整備などを要望します。以上